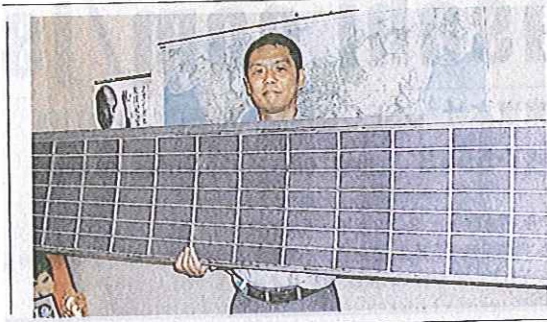


太陽光発電パネル 住宅の外壁用開発

佐賀・鳥栖の業者

佐賀県鳥栖市の川口スチール工業（川口信弘社長）が、住宅外壁に張り付けて太陽光発電を行うパネルの写真を



開発した。太陽光を多方向から効率的に集められるのが特徴で、パネルをタイル状にし、住宅外壁として違和感がないよう仕上げた。

発電には直径1ミリの球状シリコンを使用。球状シリコンを1個ずつアルミ製の反射鏡にのせ、多方向から光を集めることができるようにした。長さ約180センチ、幅約40センチのスチール製パネルに

は、1794個の球状シリコンを敷き詰めたセル（横約16センチ、縦約6センチ）を84枚組み込んだ。

8月から太陽光発電設備をそなえた住宅1棟（2階建て延べ床面積144平方メートル）を約2200万円（土地代別）で販売している。屋根にはフィルム状で軽量の太

陽電池を載せ、南面の外壁に今回のパネルを張る。夏場などに最大量の発電ができれば、毎月5万円の売電が可能という。

川口社長は「売電収入で毎月の住宅ローンの負担が減るから、持ち家をこれまでより楽に購入できるようにするはず」と期待している。問い合わせ

わせは同社（0942・83・6331）へ。

2010年（平成22年）

8月13日

金曜日

